

高等学校

教科【国語】

単元【現代の国語：ディベートをしよう】

主体的・対話的で
深い学びのポイント

意見や発想を出し合う学習活動にICTを活用することで、論点を共有し、考えを広げたり深めたりすることができる。

ICT活用のポイント

話し合いによって深まった思考や、考察によって変化した意見を、協議の経過ごとにJamboardに保存することで、学習の積み重ねを振り返ることができる。

使用する
ICT機器

PC、タブレット等

使用するアプリ・
クラウドサービス等

G Suite (Classroom、Jamboard、)

クラウド
の活用教材の配布・回収等
生徒の学習状況の把握資料等の共有
その他（ ）本時の
ねらい

立論の柱を説得力のあるものにするために、多角的に意見を検討する。

主な学習活動
(学習場面)

ICTの活用・留意点等

評価

導入

○本時の目標を
確認する

一斉

○前時の内容を
振り返るClassroomにアクセスし、前時の確認と
本時の目標を確認する。

指針2

クラウド

- 各自、前時に学習したディベートの基本的な進め方に即して、論題についての自分の考えを確認する。



ICT機器

展開

○ブレインス
トーミング

協働

○情報の収集・
整理

個別

Classroom上にあるJamboardに
アクセスし、チームごとに
ブレインストーミングをする。
(青の付箋)

指針3

- 似た意見をまとめ、整理する
→根拠の薄い意見や、情報が不足している付箋の色を黄色に変える。
- 整理した意見が、対戦相手側の立論としても成立しないかという観点で協議する。
- 相手側の立論としても成立するものは、赤の付箋に色を変える。
- ブレインストーミングで出た意見や発想について、新たに生じた疑問や、不足している情報について調べるとともに、赤の付箋についてさらに反論を考察する。
→ドキュメントにまとめる。



ここで評価

【思】多角的に
論題を検討し、
論題に対する理
解を深めること
ができる。

終末

○本時の振り返り
と次時の予告フォームで作成した振り返りシートに自己
評価を回答（自動集計結果を教師が確認）

指針6

クラウド



※ 表内の指針1～6は、「ICT活用授業指針」8ページにあるICT活用授業の目指す姿1～6を表しています。
 ※ ICTの導入が目的化しないように、ICTを活用する場面と活用しない場面を効果的に組み合わせることが重要です。
 ※ 評価の観点 【知】=知識・技能 【思】=思考・判断・表現 【態】=主体的に学習に取り組む態度